

「マイナポータルを活用して暮らしをベンリに！」要旨

(開催要領)

1. 開催日時: 令和2年 10月 21日(水) 13:00~15:07
2. 場 所: IBC 岩手放送
3. 登壇者 :
 - 内閣府 藤井比早之 副大臣
 - 東京工業大学科学技術創成研究院 小尾高史 准教授
 - 大船渡市総務部 阿部貴俊 総務課課長補佐
 - 三条市総務部 山澤浩幸 情報管理課長
 - 神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室
坂本豪朗 ヘルスケア ICT グループリーダー
 - 株式会社ミライロ 垣内俊哉 代表取締役社長

(プログラム)

1. 施策説明

「サービスいろいろ！マイナポータルでできること」

藤井比早之(内閣府副大臣)

2. 事例紹介

①「大船渡市における電子申請利用促進に係る取組について」

阿部貴俊(岩手県大船渡市総務部総務課課長補佐)

②「ぴったりサービスの取組 ～ 住民が ICT の恩恵をいち早く受けられるために～」

山澤浩幸(新潟県三条市総務部情報管理課長)

③「神奈川県の運用する健康管理アプリケーション「マイME-BYOカルテ」とマイナポータルのデータ連携について」

坂本豪朗(神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室ヘルスケア ICT グループリーダー)

④「4,000万人の外出促進と事業者の負担軽減に向けて」

垣内俊哉(株式会社ミライロ代表取締役社長)

⑤「海外事例から見るマイナポータルを活用」

小尾高史(東京工業大学科学技術創成研究院准教授)

3.パネルディスカッション

パネラー:阿部貴俊/山澤浩幸/坂本豪朗/垣内俊哉/小尾高史/藤井比早之

4.全体所感

藤井比早之

※敬称略・順不同

1.施策説明「サービスいろいろ！マイナポータルでできること」

マイナポータルは政府が運営する Web サイトで、行政機関が保有している自分の情報の確認や、行政機関の間で自分の情報がどのようにやり取りされているかを確認することができるほか、子育てや介護をはじめとする行政手続の検索やオンライン申請がワンストップでできる、自分専用のポータルサイトです。

また、API を利用することにより企業等がマイナポータルの機能を利用して、新たなサービスを提供することができるようになります。このあと紹介がある神奈川県や株式会社ミライロの事例は、この API を利用しています。

マイナポータルのサービスをフルに活用するためには、マイナンバーカードが必要です。マイナンバーカードは、対面でもネット上でも安全・確実に、本人であることを証明できるほか、各種証明書をコンビニで取得できる、マイナポイントがもらえる、また、来年3月からは健康保険証として使える等、大変便利なものです。

一方で、マイナンバーカードの安全性に不安があるとの声も聞かれますが、なりすまし防止や情報の分散管理などしっかりとした安全対策が講じられていますし、万が一マイナンバーカードを落としたり、失くしたりした場合でも 24 時間 365 日受付しているフリーダイヤルに電話することで一時利用停止ができます。そもそもカードの IC チップには税や年金などのプライバシー性の高い情報は入っていません。

このように万全の安全対策が講じられていますので、この機会にぜひマイナンバー

カードを取得して、マイナポータルをご活用いただければと思います。

2.事例紹介

①「大船渡市における電子申請利用促進に係る取組について」

大船渡市では、児童手当現況届についてはぴったりサービスの運用開始にともない、平成 30 年度から電子申請の受付を開始しました。

運用開始に当たり SNS を活用したり、個別通知発送の際にマイナポータルの LINE 公式アカウントの QR コードを掲載したチラシを同封したりして、制度の周知と電子申請への誘導を図っています。

また、従来の受付相談の特設窓口の開設期間を短縮し、電子申請に流れるような誘導も図っています。

②「ぴったりサービスの取組 ～ 住民が ICT の恩恵をいち早く受けられるために～」

三条市では、いつでもどこでも利用できるという特徴がある、ぴったりサービスに全ての電子申請サービスを集約させました。

図書の貸し出し、学校開放の手続等の日常的に利用できるものから、被災者生活・支援金の支給や避難先情報の届出等が、発災時には、遠隔市街地からもできるようにしました。今後は、引越しワンストップサービス等も利用できるようにすることを検討しています。

③「神奈川県が運用する健康管理アプリケーション「マイME-BYOカルテ」とマイナポータルのデータ連携について」

神奈川県では、平成 28 年3月に個人の生涯にわたる健康情報を収集・蓄積してライフログ化し、効果的な健康管理を行うため、「マイ ME-BYO カルテ」という健康管理アプリケーションを構築しました。

当初はウェブブラウザ版のみでしたが、平成 30 年 11 月には、スマートフォンアプリ版も公開しました。また、LINE と連携し、LINE 上に公式アカウント「ME-BYO online」を開設しました。この連携により、その登録者数は約 130 万人です。

この「マイ ME-BYO カルテ」とマイナポータルを連携させることで予防接種履歴を確認することができます。

今後は、特定健診や乳幼児健診、薬剤情報、健康保険証情報等にも活用できるよう拡張していきたいと考えています。

④「4,000 万人の外出促進と事業者の負担軽減に向けて」

国内に暮らす障害者は、公共交通機関やレジャー施設等のサービスを利用する際に、障害者手帳を持ち歩き提示しなければなりません。

しかし、この障害者手帳には、個人情報に記載されており、毎日パスポートを持ち歩いているような不便な生活を送っています。また、障害者手帳は発行主体によりフォーマットが異なるため、確認する事業者にも負担となっています。

そこで、障害者手帳をスマートフォンアプリで管理できる「ミライロ ID」を運営しています。これにより、障害者と事業者双方の負担を減らすことができます。さらに、本年6月からはマイナポータルと連携させて、公的なプラットフォームとして運用しています。マイナポータルとの連携により、ミライロ ID は公証性を有することができました。

⑤「海外事例から見るマイナポータルの活用」

EU の多くの国では、電子空間での身分証明書である「eID」を搭載した IC カードである「eID カード」が発行されています。日本のマイナンバーカードに相当するものですが、多くの国で「eID カード」の所持が義務化されているため、日本と比較してカードの普及が進んでいます。また、スマートフォンを利用した「eID」を提供する国も数多くあります。国民向けポータルも多くの国で提供されており、マイナポータルと比較すると、住民が行政機関に一度提供した情報は再度提供を求めない「Once-only の原則」と、紙書類を徹底して削減できる「デジタルポスの利用」がより充実していると感じています。また、利用者が日常的に使うサービスを多くそろっており、マイナポータルはその点で普段使いのサービスが不足していると思います。併せて、若いうちからマイナポータルに慣れてもらうことも必要だと思っています。

紙による電子行政手続きを単に電子化するというのではなくて、デジタルバイデフォルト、その原則の下で、どうすれば利用者にとって新たな価値が感じられるかを考えて、今後よりよいマイナポータルを作っていただくことを期待しています。

3. パネルディスカッション

阿部:

マイナンバーカードの普及が進んだ上で、死亡、出生、婚姻、戸籍の届出等普段使いのサービスをデジタル化できればいいと思います。

山澤:

マイナンバーカードの普及と現在のぴったりサービスの機能の強化が重要です。官民連携でもワンストップになれば、住民の方は、もうどんどんどんどん利用していただけのではないかと思います。

坂本:

デジタルIDの利用、もしくはSIMに乗せた運用ができれば非常にいいと思っています。また、マイナポータル経由で引き出せる・呼び出せる PHR 情報、健康情報、医療情報等の範囲がなるべく早期に拡大していくとありがたいです。

垣内:

マイナポータルにおいて、療育手帳、知的障害のある方の手帳は対応しておらず、早期に対応が必要です。また有効期限のない障害者手帳に関しては、身分証にふさわしくない古い写真のまま使用されているため、マイナポータルの顔写真を提供していただくことができれば、より正確性の高い本人確認手段としてミライロID を使っていただけたらと思います。

小尾:

過去に公的個人認証サービスの民間利用について、企業と考えた結果、カードの普及率が30%を超えないとビジネス的に成立しないと言われてきました。そのことを考えると、マイナポータル利用率が国民の30%程度にならないと、民間企業では、マイナポータルとの連携を真剣に検討してもらえないと思います。政府には、完全電子化を考えた場合、入口から出口まで一切紙を使わないで業務フ

ローがまわるような制度の見直し、仕組みを考えていただければと思います。

4. 全体所感

藤井：

デジタル庁の新設、デジタル革命ということで、内閣を上げて取り組んでいます。本
日ご指摘をいただいたとおり、国と自治体との連携強化はもちろん、民間との連携が
これから必要となってくるため、官民連携した取組強化を進めてまいりたいと思いま
す。これからも現場の声をいただき、誰一人取り残さない、多くの皆様にとって便利に
なったと思えるデジタル社会を作るために、取り組んでいきたいと思えます。